あらた同窓會

平成27年 春季号
平成27年3月25日発行
鹿児島大学農学部
あらた同窓会報
電　　話 099-285-8537
振替口座 02010-2-876

平成26年度会費納付のお願い

（会計年度；平成26年10月1日から平成27年9月30日）

本会は、会員が納付する年会費と新入生の入会金を主な財源として運営されています。

近年、会費収入額に明確な漸減傾向が認められ、一般会計の収支は平成21年度から３年間赤字でした。そこで、この赤字解消に向けた対策として、毎年発行している会報を全会員に配布して会員との意思疎通を図ることが不可欠であるとの認識に立ち、これまで設けていた会報配布の制限を徐々に緩和することとしました。そして、昨年度は取敢えず昭和40年代及び50年代の卒業者全員を会報配布者に追加しました。その会報紙上で「会費納付」を呼びかける一方、会費免除者や終身会員には会報配布部数の増加に伴う諸経費の増加の一部を支援していただく目的の「会報賛助金」への協賛をお願いしました。

前年度は、多くの方々の理解によって会費納付者数が増加する一方、多額の賛助金が寄せられました。皆さんのご協力に感謝申し上げます。

今年度の会報は平成９年以前の卒業者全員に配布します。さらに、来年度以降は全会員に配布する予定です。

同窓会活動への積極的な参加と本会の再生にご協力ください。

年会費は2,000円です。同封の郵便振込用紙をご利用ください。
会報賛助金は一口　2,000円です。

事務局の業務日と連絡

事務局の業務：毎週月曜、水曜及び金曜日の10時から16時まで
住所：890-0065 鹿児島市郡元１－21－24
鹿児島大学農学部あらた同窓会
Tel・Fax：099－285－8537
e-mail：aratakai@mc2.seikyou.ne.jp

目　　次

新学部長挨拶…… 岩井　　久 … （2）

退職される恩師

「北国人の南国生活35年」…… 佐々木　修 … （3）

「お世話になりました。ありがとうございます。」…… 佐藤　宗治 … （4）

「鹿児島大学農学部入学から定年退職まで」…… 冨永　茂人 … （5）

「鹿児島高等農林学校の伝統　－小出満二第四代校長について－」…… 岩元　　泉 … （6）

「学生は神様です」…… 遠藤　日雄 … （7）

講演録…… 冨永　茂人 … （8）

支部便り

近畿・兵庫あらた会…… 柳田　興平 … （9）

東海あらた会…… 秋吉　輝夫 … （10）

長崎あらた会…… 森永　鉄美 … （11）

クラス会･グループ便り

F31同窓会　鹿児島に集う …… 吉村　一郎 … （11）

A32同窓生の鹿児島例会と情報連絡紙 …… 古市　吉男 … （12）

育珍会（植物育種学研究室同窓会）…… 菊川　　明 … （13）

学生便り

生物生産学科…… 山崎　佑剛 … （14）

生物資源化学科…… 山口　　蘭 … （14）

生物環境学科…… 板谷　洋輔 … （15）

獣医学科…… 遠矢　翔太 … （15）

恩師･同窓のお慶び並びに訃報 …… （16）

本部便り…… 林　　満 … （19）

会報賛助金の協賛者ご芳名…… （21）

会計報告…… （22）

鹿児島大学農学部あらた同窓会会則…… （24）

編集後記…… 遠城　道雄 … （裏表紙裏）

表紙：桜島

ご挨拶・・・28年度に向けた改組

農学部長
岩井　久

この４月より学部長を拝命しております岩井久です。よろしくお願いいたします。私は、1976年に旧農学科に入学しました。その頃の九州管内の学園は、８年間続いた全国的な学生運動が下火になる中でもまだ不安定な状態が続いており、特に鹿児島大学では、民青系の教養部自治会と革マル派の影響を受けたサークル実行委員会が激しく対立し、授業中に討論会があるなど、郡元キャンパスは昼夜騒がしかったことを記憶しています。その一方で、今の学生交流プラザの場所にあった大集会室では、部やサークルの資金集めのためのダンスパーティーが毎週末開催されており、大そう華やかなところに来たものだと感激したことでした。桜島はというと、今の昭和火口よりも市内側にあるもっと大きな南岳火口が活発に爆発しており、降灰量は今よりも格段に多かったと思います。

卒業後他大学の大学院に進学、そこの助手を経て1988年に本学助手に着任、以来27年間、教員として農学部の発展の中に身を置いてきました。この間、本学は、農林・文部政策の変化の中で、平成２年（1990年）と９年（1997年）の２度にわたり改組を行いました。この時期は、農学部における教育・研究が、高度経済成長期の量を重視した時代から、食の質や生産環境保全などを重視する時代に対応すべく、転換を図っていたと位置づけられます。

そして現在は、文部科学省の国立大学改革プランの一環として、ミッションの再定義というものが、全国一斉に（農学分野は昨年４月から）行われています。ミッションの再定義とは、各国立大学と文部科学省が意見交換を行い、研究水準、教育成果、産学連携等の客観的データに基づき、各大学の強み・特色・社会的役割を整理したものです。今後、強みや特色を伸ばしその社会的役割を一層果たしていくために、機能強化を図っていくというものです。

その結果、本学部のミッションは、①農畜産物の安全安定供給や利用加工、②特殊土壌および災害からの国土保全などの地域課題、③地球的課題である温暖化対策、以上３点に関する教育研究の推進であるとしました。そして、28年度を目標に、このミッションの再定義、ならびに求められている人材養成の役割や機能強化から、以下の観点を中心として学科再編を行うこととしました。

①我が国の主要な食料生産地域である南九州において活躍する農・畜産分野の技術者・指導者の養成を推進する。②社会的な要請が高まっている食の安全性・利用加工や食品機能と健康に関する教育分野を強化する。③地場産業に貢献する人材養成をさらに推進するために、焼酎・発酵学の教育を充実させる。④地域資源の利活用と地域環境の管理保全・災害対策に関わる技術者・指導者の養成を推進する。⑤農学部および水産学部の教育資源を活用し、農水分野における国際的な対応能力をもつ人材育成を両学部が連携して行う特別コースを設置する（平成27年度開始）。

現在、教育コース名、科目の配置、教員の移動を含め種々の検討を行っている最中ですが、目指すところは、本学部の卒業・修了生なら安心して採用できますよ・・と社会へ対して保障できるカリキュラムの構築、あるいは、地域でも海外でも活躍できる優れた人材をより多く輩出できるような教育の質の向上です。

退職される恩師

「北国人の南国生活35年」

生物生産学科
作物生産学講座
作物学研究室
佐々木　修

私の故郷は岩手の北上山地の標高800mの寒村で、深い山々に囲まれ、一筋の川沿いの道の両側に家が点在するといったイメージのところです。日常的に狐、狸、野ウサギ、熊などに遭遇します。山が迫っているので太陽を拝めるのはせいぜい７～８時間くらいです。冬期は－15～20℃になることも珍しくなく、深雪で通学できなくなる時期は川が完全凍結するのでスケートの出番となります。氷は川下に向かって緩く傾斜しているので、一回蹴ると100mも滑ります。突き出た岩を上手に避けているうちにすぐに到着するので、夏場の通学よりよほど楽で楽しいものでした（帰りは少し疲れますが･･･）。中学までそこで過ごした後､下宿､アパートを転々と渡り、鹿児島に移るまでの15年間に12回転居したようです。鹿児島で６回ですから、ジプシー的生活は性に合っているのかもしれません。移り住む先々の地域の地形や気候風土、人々の気性や方言などを較べて楽しむという癖が知らず知らずに身についたようです。

旅ガラスの生活にピリオドを打って鹿児島に赴任したのは昭和56年６月です。とりあえず神田電停の西側の木造２階建てのアパートの６畳・４畳部屋に居を構えましたが、とにかく不慣れな猛暑には悩まされました。また猛暑の期間も長く、私の体感温度では６～10月まで続きました。おまけに桜島活動期ということで連日の降灰続きで窓が開けられません。夕方帰るとサウナ風呂状態ですが、床の近くの空間が幾分温度が低いので空気を乱さぬよう、下層１mほどの空間で生活しました（家賃分使っていません)。移動もほとんど匍匐前進、テレビは横倒しにして寝転がって見ました。次第に大学にいる方が涼しいので研究室で学生達と一献傾けながら過ごすという生活リズムを確立しました。降灰にも悩まされましたが、あとで桜島にも控えめな心遣い（サービス）があることに気づきました。一つ目は、降灰が偏らないよう夏は薩摩半島、冬は大隅半島と公平になるよう配慮していること、二つ目は、灰まみれの体を洗い落とすために四方に温泉を湧き出していること、三つ目は、頻繁に灰が降ることで洗車代がかからないこと（つまり洗車しない)、四つ目は、灰が降ると天文館のスナックで大変モテるということです（皆道草をせず帰宅するなかで、灰まみれでドアを開けるからです～これは故植木健至先生の直伝です)。

さて、年月を経るに従って物事には異なる側面が見えてくるもので、何年か過ごすうちに東北や関東などの北国地域にはない多くの羨ましい特徴があることがわかってきました。その一は、錦江湾を包み込むように陸地が取り囲み、その錦江湾を望むように桜島が聳えている姿です。もし錦江湾がなければ桜島はあれほど雄大には見えないでしょう。またもし桜島がなければ錦江湾はあれほどの包容力を感じさせないでしょう。それだけでも充分なのに桜島は湧き上がる噴煙までトッピングしています。まさに白熊のソフトクリームを連想させます。さらに他県であまり見られないものに南方500kmに連なる数々の離島があります。これらを含めると十数県相当の広がりを訪問者に印象づけるでしょう。ここで指摘したいのは面積的な広がりではなく、分化の多様性と広がりを体験することができるということです。他のどの都道府県を訪ねてもこれほど多様な文化に触れることはできないでしょう。その二は、当たり前のことですが、北国より温暖だということです。だいぶ前に沖永良部島で農村調査を行った折、老人一人世帯が多く生活していることに驚いたことがあります。北国の積雪地帯では老人一人世帯の多くは子供の元に身を寄せざるを得ません。主な理由は降り積もる雪かきが困難だということです。また１年の約半分は農業生産が困難だということもあります。その三は、温泉の宝庫であるということです。温泉を売り物にする県は珍しくないので特徴には入らないと云われるかもしれません。しかし鹿児島では全域に渡って温泉が“湧く”ほどあることを知って驚きました。鹿児島市内でも以前はコンビニに肩を並べるくらい有ったとか無かったとか･･･。入浴料もコーヒー牛乳よりも安かったかもしれません･･･。大学近くのみずほ温泉は最近まで研究のための農作業の疲れ落としと憩いの場所でした。これから高齢化がますます進行する時勢にワンコインでくつろげることは他県にとっては羨ましい限りでしょう。ちなみに故郷の岩手では千円以上だと聞きました。

鹿大学生気質の今昔などにも自分なりの興味深い感想がありますが、予定の紙面を超えました。とりとめのない文章となりましたがこの辺で擱筆させて頂きます。長い間本当にお世話になりました。

「お世話になりました。ありがとうございます。」

生物生産学科
作物生産学講座
植物育種学研究室
佐　藤　宗　治

「サイレンだ！」眠い目をこすりながら三畳間の下宿の窓を開ける。「ワッ！」催涙ガスが鼻をつく。慌てて窓を閉める。大学にはビラとゲバ棒を持ったヘルメット姿の学生達が溢れていた…。そんな、大学紛争の渦中に大学生活を経験した私には、何が起こっても、ただ静かに受け入れる、あるいは、こっそりネットに書き込むという、今の学生に違和感を覚えます。いや、人や同窓会、社会にも興味の無い一部の教員にも。時代の変遷を感じ、己が齢を重ねたことを実感しています。

「君は粟を見たことがあるか？電子計算機は教えられるか？」「はい、任せて頂いて大丈夫です。」そして、私は、玉利喜造先生が初代校長という、歴史ある憧れの鹿児島大学に赴任しました。

実は、昔、私は“Dr. Tamari”を存ぜず、米国で恥をかいたことがあります。当時、海外では、育種分野で“Dr. Tamari”を知らない人はいなかったくらいですが、日本の教科書には“玉利喜造”先生の記載は無かったのです。

「おい、若いの、一緒に呑みについてくるか」と、着任早々、先輩教員から誘われました。騎射場デビュー、天文館デビューを一気に済まし、それから楽しい日々が続き、いつのまにか30年を超える月日がそこで流れました。

教員としても、学部構成員としても自分では至らないことが多かったですが、支えて下さった多くの教職員、学生のおかげで何とか定年を迎えられました。ありがたく存じております。ご支援頂いた皆様に感謝いたしています。そして、薩摩という、この地にもお礼を申し上げます。

さて、この30余年の間に、人の行動、考えは変化し、改組や国立大学法人化等で鹿大も大きく姿を変えてきました。また、教育改革等も進んできました。ただ、変化の結果の良し悪しは、私には判断不能です。

今や、大学もイメージキャラクターを持つ時代で、鹿大にも“さっつん”が登場しました。残念ながら、私は、“さっつん”に、鹿児島大学の理念や進取の精神を感じません。地元企業が創り上げたイメージのパクリに見えます。本学の、この標語「進取の精神」自体、ある有名私学の建学時の教旨として使われてきた言葉と混乱します。ついでですが、“北辰蔵”という焼酎学講座研究棟の名称も、七高ゆかりの法文学部の施設ならともかく、農学部には似合わないと考えています。

平成24年に共同獣医学部ができました。事務職員は農学部と共通です。なのに、教職員一同が集まる合同忘年会ができなくなりました。一方が、合同忘年会を断固拒否したからです。当然、間に入る事務職員、技術職員は、どちらに参加するにも他方に気を遣う羽目になり、結局３つが独立に開催することになりました。他人の心情を思い諮る能力の無い人は教員に相応しいのか、健全な教育環境が保たれているのかと、心配してしまいます。私は、今風から取り残された人種になりました。

もっとも、近い将来、高等教育自体が激変します。大学間の統廃合の問題に加え、MOOCs等オンライン大学講座、電子教科書の普及もあります。知識習得だけなら、既に大学は不要でしょう。ならば、「鹿大の存在意義とは何か」の答えを出す必要があります。本当は、私の世代がそれを行ってから去るべきだったのですが、その能力が無く申し訳無く思っています。お詫びいたします。

末筆ながら、長い間お世話になりましたことに対して、改めてお礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願いいたします。

卒業生、在校生、関係各位、皆様のご健勝とご活躍、そして、鹿大のさらなる発展をお祈りし、擱筆いたします。

「鹿児島大学農学部入学から定年退職まで」

生物生産学科
園芸生産学講座
果樹園芸学研究室
冨　永　茂　人

昭和44年に鹿児島大学農学部園芸学科に入学した私は、卒業後大学院農学研究科（修士課程）に進学しました。果樹園芸学研究室の大畑徳輔教授と岩堀修一助教授、青果保蔵学研究室の橋永文男助教授の指導を受け、「カンキツ類の果実品質と成熟生理に関する研究」を開始し、ライフワークになっています。大畑先生は、昭和45年に農林省園芸試験場果樹部長から教授として赴任してこられ、栽培技術の改善により地域農家に貢献することを重視された先生でした。そのため、果樹研究室でも助教授の岩堀先生と私たち学生だけで、学内圃場と唐湊果樹園で50アール以上のポンカンを栽培・管理していました。ポンカンは大畑先生が赴任されてから、枕崎の農家の成木をトラックで何回にも分けて、研究室の皆で移植したものでした。その頃のお二人の先生のご指導と経験が、試験場時代を含め、現在の私の基礎になっていると思います。

大学院修了の昭和50年に農林省に採用され、讃岐うどんで有名な香川県善通寺市にある四国農業試験場に勤務しました。当時は、ウンシュウミカンの栽培面積と生産量はピークから生産過剰に突入した頃で、カンキツ類の価格低迷は現在まで続いています。昭和56年には果樹試験場興津支場に転勤し、育種業務（交配実生の評価・選抜が主体で栽培中心）と研修生の指導を担当しました。三保の松原にあった宿舎から富士山がきれいに見えたものです。

昭和58年（1983年）に、果樹園芸学研究室の講師として着任しました。その時には、大畑先生は定年退職され、岩堀先生が教授に昇任されていました（先生は平成３年に筑波大学に転勤され、翌年小崎格先生が赴任されました）。岩堀先生からは「果樹園のカンキツ類の栽培をやって欲しい」と言われ、引き続きカンキツ類の栽培生理に関する研究を行いました。赴任時の年齢は33歳で当時の４年生と一回り程度しか違わず、毎週、唐湊果樹園のポンカンを学生と一緒に管理しながら、和気あいあいとした雰囲気で教育や研究を行ったので、研究室の卒業生とは苦労を伴にした仲間という意識が強く残っています。

それから32年間、学内と唐湊果樹園で、学生や院生と一緒にカンキツ類の栽培生理について研究しながら、大学以外の鹿児島県内各地の農家の圃場を借用して露地栽培やハウス栽培のウンシュウミカンやその他の果樹について試験を行ってきました。その後、屋久島や奄美大島のポンカンやタンカンの調査に、学生と一緒に年に数回もでかけるようになり、現地農家の方々や普及指導員の方々と一緒に調査をし、学生も含めた交流会を行い親睦も深めました。このような教育・研究指導のやり方は科学的ではないと言われるのかもしれませんが、学生に栽培現場を経験させることができることもあり、これまでずっと続けてきました。最近は、カンキツ類だけではなく、パッションフルーツやマンゴーなどの亜熱帯果樹の研究も開始し、それらを卒業論文や修士論文で取り組む学生も増えてきました。

恩師の教えもあり、「地域の総合大学である鹿児島大学は地域に貢献することが重要な使命であり、農学部はその中心的な学部である」というのが私の信条です。卒業生を含む果樹に取り組む仲間とともに、鹿児島の果樹産業に貢献するために「鹿児島果樹懇話会」を作りました。私は今年定年退職しますが、微力ながら、今後も鹿児島の果樹産業や農業の振興を通じて地域の活性化に力を尽くしていくことが、私をこれまで育ててくれた鹿児島大学農学部への恩返しと思っています。

退職にあたって、あらた同窓会をはじめ、皆様に心から感謝申しあげます。

学生とのタンカン調査（奄美大島）

「鹿児島高等農林学校の伝統
－小出満二第四代校長について－」

生物生産学科
農業経営経済学講座
農業市場学研究室
岩　元　　泉

最近、兵庫県にお住いの加藤整さんというお方から『日本農業教育の碩学　小出満二－その業績と追憶－』という本が送られてきた。鹿児島大学に寄贈したいとのことだったので、中央図書館に納めさせていただいた。あらた同窓会諸氏は当然ご承知であろうが、小出満二先生とは鹿児島高等農林学校に大正三年から昭和三年まで教授として在職され、昭和十一年から十三年までは第四代校長として勤められた方である。太平洋戦争後は東京農林専門学校長兼九大教授を辞し、全国農業会講習所（後に鯉渕学園となる）所長を務められた。加藤整さんはこの鯉渕学園の卒業生で、小出先生の謦咳に接した一人であり、兵庫県農協中央会を退職後、小出先生のことを丹念に調べ、書き上げられたのが前掲書である。

小出満二先生のことは私が九州大学にいた時からお名前は存じ上げていた。というのは九州大学農学部に「西洋農学古典文庫」という膨大な古典農学の貴重図書があり、小出満二先生、木村修三先生の蔵書を基にしたものであることを常に聞かされていたからである。小出先生は大変な蔵書家で、鹿児島大学図書館にも、豪州滞在中に蒐集した豪州・南方関係の洋書を、実業家の北村虎之助氏の援助で持ち帰った「小北文庫」686冊が貴重図書に収められているが、このほかにも鯉渕学園、東京農工大学（前身は東京農林専門学校）にも「小出文庫」がある。この「小北文庫目録」は南方圏研究センターがまとめたものである。

小出満二先生は鹿児島高等農林学校時代には農業政策や農業経済を教えておられたが、文部省督学官も併任しておられ、農業教育に造詣が深く、特にデンマーク農民教育に深い関心と、共鳴を持っておられた。加藤整氏の著作の中で私がもっとも深く共感をしたのは、農業教育に関する小出先生の基本的な考え方で、孫引きであるが引用すると「農によって人類は定住するようになり、文明は始まった。この意味で、農は万人が一通り心得ていて何の支障なきのみか、実に生存の根底として相当の知識を有するべきであるから、田舎ばかりでなく都市の小学校でも学習せしめてよいと思う。（中略）小学校で農業を科するのは将来農家たる準備として知識技能を授けることに傾きすぎてはならぬ。国語や地理を授ける目的は人を作る手段であるが、農業を授けるのもまったくその趣旨と異ならぬ」（『農業教育』昭和三年）今日、食育や食農教育が改めていわれているが、けだし慧眼というべきであろう。

ところで、加藤整氏は著作において、鹿児島高等農林学校時代の記述が少ないことを気にしておられたので、『あらた同窓会75年記念誌』および『鹿児島大学農学部50年史』を改めて調べてみたが、小出先生のお名前が出てくる箇所は何箇所か出てくるものも、思い出といった形の記述が見当たらなかった。玉利喜造先生を始めとして、吉村清尚先生などの思い出話は各所にあるのだが、小出先生に関しては『鹿児島大学農学部50年史』に歴代校長の思い出として農芸化学科の西田孝太郎先生が書かれたものだけであった。

これがどういう訳かわからない。加藤整氏の著作によると、小出先生は大変な博識の持ち主であると同時に教育に関しては包容力の大きな先生であったことが、終戦に当たっての東京農林専門学校の訓示などからも察せられるのだが、不思議でならない。あるいは「あらた同窓会」誌の昭和三年以前のものがあれば、多くの記述があるのかもしれない。

また、『あらた学園四十年誌』（1952）には鹿児島高等農林学校から鹿児島大学農学部へ、として沿革や各学科、附属施設の説明などがあるが、その中に校友会という項があり、そこで「校友会の中にもう一つの特異な存在は消費組合であった。今日の協同組合の前々身に遡って当時農村振興の最も力強い支柱の一として産業組合運動が識者の間に唱えられて居ったのに呼応して学生にその学用品等を便利廉価に供給するというに止まらず組合の運営を実際に習得させるという目的で、当時の教授であった小出満二先生等の首唱盡力で大正四年十二月に校友会の内に職員学生等によって創立せられ爾後三十年以上継続し晩年にいたって少しく組織や性質に変更があったが大体にその使命を全うしたと言うてよかろう。」という記述を発見したのは収穫であった。鹿児島大学農学部には、鹿児島高等農林学校の精神が連綿と継続しているはずである。あらた同窓会の会員諸氏においても、先達が歩んできた道を辿りなおしてみると、新たな発見があるかもしれない。

「学生は神様です」

生物環境学科
森林管理学講座
森林政策学研究室
遠　藤　日　雄

平成14年４月１日、（独）森林総合研究所長から「文部科学省へ出向を命ずる」という辞令を拝受し、翌２日、鹿児島大学長から「文部教官教授に採用する」の辞令を拝領した。その足で、就任早々の下川悦郎農学部長を表敬訪問したところ「学生をお客様として扱うように」との訓示を受けた。着任早々複雑な心境になった。

私が研究者を目指して大学院に進学した昭和40年代後半は、吹き荒れた大学闘争の反動のせいか、講座（特に旧帝大系の）の多くで「教授＝神様、助教授＝天皇、助手で人並み、院生・学生＝虫けら」のようなヒエラルキー感が蘇っていた。虫けらの分際ですぐに神様（教授）とはいかなくとも、せめて人並みの助手になりたいものだと自分なりに一生懸命勉強したはずだったが、今では「学生＝お客様」になっている。三波春夫の決めぜりふじゃないが「お客様は神様でございます」だ。ということは「学生・院生＝神様、助手（現在、助教）＝天皇、助教授（現在、准教授）で人並み、教授＝虫けら」という倒錯したヒエラルキーが成立するということになる。一生懸命頑張ったのに、結局、昔と同じ虫けらだったのかと思うと複雑な心境になった。

しかし私は、13年間、下川学部長の指示どおり、私なりに学生をお客様（神様）として扱ってきたつもりである。時代の波には抗しえないからだ。学生をお客様として扱わざるをえないのは、需要（大学の募集人員）と供給（受験生の数）のバランスが崩れたからにほかなない。ちょうどＪＲ社員が、好景気になると旧国鉄時代の「乗せてやる」意識が昂じて高飛車になり、不景気になるとペコペコするのと似て無くもない。

しかし問題は、ポピュリズム（学生迎合主義）に堕すことなくいかにきちんと教育を学生に供するかということだ。お客様はわがままである。「自分は神様だ」という自覚に欠けていることこのうえない。なんのことはない、クレーマーの常套句としての「お客様は神様」に過ぎない。やれ板書の字が小さい、やれパワーポイントの齣に文字数が少ない、大学の講義らくし知的な内容にしろ等々挙げたらきりがない（なにしろ指定した教科書を買わない学生が半分いるのだ）。そこでパワーポントの字数を多くすると、今度は写真や図をもっと増やして理解しやすいようにしろとくる。もうこうなると「学生＝神様」どころか「学生＝疫病神」である。

しかしだからといって、「触らぬ神にたたりなし」を決め込んだり、スカイマークエアラインズのように「機内（教室）での苦情は一切受け付けません」というわけにはいかない。私なりに、できるだけ興味をもって講義に臨むよう工夫をこらしてきたつもりである。特に私の担当した講義は森林政策学といって農学部では珍しい社会科学に属する講義だ。高校時代、日本史、世界史、政治経済を勉強してこなかった学生に、林野制度史や林業経済を教えるのには一苦労したが、あの手この手でなんとか基本的なことだけは教えたつもりである。

そのせいか学期末に行われる学生アンケート調査でも評価が高く、「特に評価の高い授業」にも何度か顔を出したこともある。しかしたいして嬉しくなかった。本質的な意味で、ポピュリズム（学生迎合主義）に陥らずに学生をどのようにお客様として扱っていくのか、その手法を体得できなかったからである。ほんとうに難しい課題である。

この問題は今後いっそう難しく重くなることは必至である。少子化がそれに拍車をかける。数年後には、学長が入学式で「全国の数ある大学から鹿児島大学をお選びくださりありがとうございます。本学には○名の教職員が勤務しております。ご用がありましたらご遠慮なくお近くの教職員にお申し付けくださいませ」という挨拶をするようになることは間違いない。飛行機の客室乗務員まがいのことをせずに鹿児島大学を定年退職できたことはある意味幸せだと思っている。

私は虫けらのままで退職するが、残った先生方にはポピュリズムに堕すことなく良質の教育を講じて欲しいものである。鹿児島大学農学部の学生は、高校時代受験勉強をして入学しているので、それなりの実力を持ち合わせている。やりようによっては、学生に「神の如き力を秘めた学生になってやろう」という自覚が芽生えるかもしれない。それを期待しながら鹿児島大学を去りたいと思う。ありがとうございました。

講　演　録

「気候温暖化と南九州の果樹栽培」

鹿児島大学農学部生物生産学科果樹園芸学研究室
冨　永　茂　人

永年生作物である果樹は、一旦植え付けると果実を生産するまで長年を要し、高品質果実を連年安定生産するためには、長年にわたって、栄養成長と生殖成長のバランスを保つことが重要であり、果実の生産や品質には、開花前の花芽分化から果実の発育・成熟・収穫までの各発育ステージの気象条件や栽培管理が単発的あるいは累積的に影響することから温暖化の影響を最も強く受けます。

１．温暖化最前線にある鹿児島県

鹿児島県は、北緯27°（与論島）～北緯30°（出水、伊佐）まで南北に600kmもあり、温帯から亜熱帯までの多様な気象条件にあり、秋冬季と春季が温暖である屋久島や奄美群島はポンカンやタンカンなどの温度要求量の高いカンキツ類の栽培適地、出水、日置、大隅など海岸地域は温州ミカンから中晩生カンキツまで、多種類のカンキツ類の栽培適地です。一方、秋冬季の気温が低い薩摩川内市、さつま町、伊佐市、姶良市などではウメ、ブドウ、ナシなどの落葉果樹が栽培されています。このように、多種類の果樹が栽培されている鹿児島では気候温暖化の影響は甚大です。

１）常緑果樹であるカンキツ類に対する影響

常緑果樹であるカンキツ類では、①発芽・開花の早進化と生理落果の増加：温州ミカンやポンカンでは、発芽日と満開日が早くなり、開花後の気温の高低変動で生理落果が増加し、収穫量の低下や隔年結果の助長、果実の過剰な肥大に伴う果実品質の低下、②果実の生理障害：温暖化による夏秋季の気温上昇で果実の‘日焼け’、‘浮き皮’、‘着色不良’、‘水腐れ’などの様々な障害の発生、③果実の後期肥大と果実品質の低下：夏秋季の気温上昇によって果実の過剰な肥大と糖度や酸の低下による品質低下、④夏秋梢の発生とそれに伴う諸問題：秋季の気温上昇などにより長大で充実不良の夏秋梢の発生が増加し、翌年の花芽分化不良や夏秋稍へのミカンハモグリガの侵入によるカイヨウ病の発生、タンカンでは初冬近くまで続く暖かい気候の後に不意な寒波に遭遇することによる異常落葉と隔年結果の発生、⑤病虫害の北上と発生数の増加：鹿児島県では、防除困難なリュウキュウミカンサビダニの北上、ミカンハモグリガやゴマダラカミキリムシの発生の前進化と被害の拡大、カイガラムシ類の年間発生世代数の増加、防風樹のイヌマキの害虫であるキオビエダシャクやケブカトラカミキリムシなどの被害の拡大、などが問題になっています。

２）温帯性落葉果樹に対する影響

ウメ、ブドウ、ナシなどの落葉果樹では、秋冬季には落葉する‘休眠’という現象があり、休眠から覚醒し、正常に発芽・開花するためには一定気温（45°Ｆ＝7.2℃）以下の気温に長時間遭遇する必要がありますが、温暖化により休眠覚醒がうまくいかず、以下のような問題が発生しています。①ウメ：鹿児島県のウメは自家不和合性品種である‘南高’が主体で、受粉樹として‘小粒南高’などの品種が植栽されていますが、暖冬年には受粉樹に比べて‘南高’の開花が早くなり、受粉不良により結実量が減少しています。また、花芽の枯死や脱落、雌ずいが欠損した不完全花や花器が小さい奇形花が多くなり、正常花の割合が減少し、開花も早くなり、その後の低温により深刻な凍霜害が発生しています。②ブドウ：中四国～九州のブドウ産地同様、着色系ブドウで成熟期である７～８月の過度の高温、熱帯夜，日照不足などによる着色不良が深刻になっており、着色が改善され糖度も上昇する環状剥皮技術が普及するとともに、着色が優れる新規品種である‘クイーンニーナ’などの導入が行われています。③ナシ：休眠覚醒に必要な低温不足による発芽不良、いわゆる‘眠り病’の発生や異常花芽が増加しています。その程度は品種によって差があり、「幸水」や「新高」などの栽培が困難になっています。この対策として、収量の安定確保技術の開発、温暖化に対応できる優良な品種の探索などが取り組まれています。

３）熱帯・亜熱帯果樹の栽培の試み

温暖化の進展に伴い、マンゴー、ライチ、アテモヤ、アボカドなどの栽培が試みられ、一部では成功しています。しかし、これらの熱帯・亜熱帯果樹は露地栽培では、不意の寒害を受ける危険性が高く、高品質果実の連年安定生産のためには、屋根掛けハウスや加温ハウス栽培などが必要で、資材費に加え、燃料である重油代の高騰が問題になっています。

［平成26年11月23日開催のあらた同窓会講演会の要旨］

支部便り

近畿・兵庫あらた会だより

「平成26年度近畿・兵庫合同総会の概要」

平成26年度の通常総会は、５月25日（日）13時からJR尼崎駅北側のホテル「ホップインアミング」で一昨年・昨年に続き合同総会として開催されました。

本年度の総会には、同窓会本部の林　満常任副会長に３年ぶりにご臨席をいただいた他、体調不良のため総会への出席を控えられていた重本重典氏（獣38）が６年ぶりに参加されるなど総勢19名で和やかに行われました。

総会に先立ち、恒例行事となっています特別講演は、兵藤県競馬組合西脇馬事公苑管理事務所長の丸山重吉氏（獣49）に「日本の競馬の話」を語っていただきました。氏は県職員として競馬業務に15年間従事され、平成24年３月定年退職後も引き続き現職として活躍されていますが、①現在の日本の中央競馬と地方競馬　②日本における競馬の歴史　③兵庫県競馬組合の公正競馬と売上向上への取り組みについて、具体的な事例を交えて紹介いただきました。特に、園田競馬場でのノミ屋排除対策やパトロールビデオによる着順判定の精度向上、ファン層拡大のため園田競馬場で５月中旬～11月中旬に毎週金曜ナイターの開催や場外馬券売り場の増設計画など興味深い内容でした。

その後、総会に入り、日高康貴兵庫あらた会長（獣37）が「会員の高齢化で元気のない同窓会になっているので元気を取り戻そう」という挨拶に引き続き、近畿あらた会の内田　昭会長（獣25）が体調不良により急きょ欠席されたため浮津　護前会長（林38）が「喫煙による肺疾患が原因で70歳過ぎの会員の不幸があったので健康に注意しよう」と挨拶をされました。

次に、林　満常任副会長から同窓会本部や母校の近況報告をいただきました。

その後、記念撮影の後、14時10分には林副会長の乾杯の音頭で祝宴に入り、ビールや近畿あらた会の藤岡悦治常任幹事（農46）が坊津旅行の際に購入された焼酎「薩摩すんくじら」や渡邊幸博氏（獣27）持参のレバノン産赤ワイン「アルティチュード」などを酌み交わして歓談し、15時10分重本氏を皮切りに出席者全員が出身地、入学志願の動機、学生生活の思い出、趣味、健康管理法などマイク片手に近況報告をしました。これは約80分間にわたりました。

最後に渡邊氏の「北帰行」の独唱の後、同氏の発声で「対岳寮第二寮歌」、太野垣氏の巻頭言で「北辰斜めに」、田代氏の発声で「高等農林校歌」と「対岳寮第四寮歌」を合唱し、山下副会長の締めの挨拶で16時40分に祝宴を閉じました。

その後、11名が会場に隣接するビル内の居酒屋に移動して２次会に突入し、解散したのは19時頃でした。

なお、当日の写真は藤岡、瀬戸口、嶋田の３氏で300数枚撮影され藤岡氏がDVDに編集、寮歌は所崎氏が録音しDVDに編集されました。

おって、本年は常連の会員が健康上の理由や自治会活動などのため欠席されましたが、来年は近畿あらた会の当番で５月31日（日）、同会場で合同総会を開催の予定ですので、多数の出席をお願いする次第です。

［兵庫あらた同窓会　柳田興平（獣46）記］

東海あらた会だより

「東海あらた会たより」

回を重ねること48回となる東海三県（愛知・岐阜・三重）のあらた同窓生の会は、小春日和の天候にも恵まれた、10月26日（日）の正午より、恒例となっている名古屋城を間近に見又、昭和初期に建造され、国の重要文化財に指定されることになった名古屋市役所［昭和８年竣工］と愛知県庁［昭和13年竣工］にも程近い名古屋市丸の内２丁目の「アイリス愛知」２階の会場で開催されました。

大学農学部あらた同窓会本部からは、一昨年、昨年、にもお越し下さいました、岩井　久副学部長（生物生産学科・病害中制御学講座、教授）が、ご繁忙の中に関わりませず遠路ご臨席を頂きました。

会は、例年どおり事務担当幹事の、原岡　滓（農学科・昭和36年卒）氏が司会を務め、事項書に添って行われました。

議事に入るに先立ち、ご逝去された満　重信（農学科・昭和22年卒、前会長）氏と、鶴岡　寛治（林学科・昭和48年卒）氏、お二方へ謹んで哀悼の意を表し黙祷を捧げました。

高橋　剛会長（蚕糸学科・昭和38年卒）から挨拶があり、ご多忙の中ご臨席を賜った、岩井　久先生への謝辞に次いで、来たる11月23日農学部あらた同窓会総会の際に、功労者として表彰をして頂く候補者の方として、当支部からは、亀山　和夫副会長（獣医学科・昭和16年卒）をご推薦させて頂いた旨の報告がありました。

提案された（1）平成25年度経過及び会計報告が、原田幹事より報告と説明がなされ、異議なく承認されました。

（2）次期開催計画については、開催時期、場所、会員の方々への通知、等何れも次回の幹事会で協議させて頂くこととなった。

（3）会員短信として、近況をお知らせ下さった方々からのご様子を、拝察する事ができました。

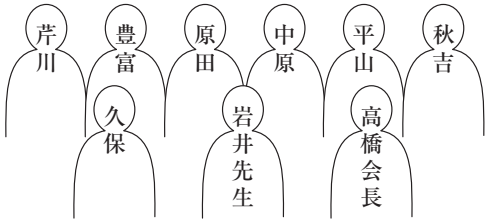
次いで、「大学および同窓会の現状について。」岩井　久副学部長からご提供下された、①鹿児島大学農学部2014　②農学部・大学院、農学研究科概要　③鹿児島大学で平成27年度よりスタート。農学部と水産学部が連携した、国際食料資源学特別コース。④2014秋・学ぶことに年齢は関係ありません・鹿児島大学公開授業。⑤鹿児島大学同窓会連合会会報。No.18。⑥あらた同窓会・平成25年秋季号。について、特に③、④のまったく新鮮な特別コースの発足等もあり、それぞれ詳しいご説明を拝聴させて頂きました。

懇親会は、校歌、第二、第三寮歌、北辰斜めに、の歌声が流される中で、久保　清昭（農学科・昭和22年卒）氏の、各位の健康とあらた会の発展を祈念して、“乾杯”のお声で始まりました。

それぞれ席を巡っての談笑が盛り上がる中で、中原一郎（林学科・昭和44年卒、幹事）氏から、日頃活動されている、地域の親睦あそび等の催しで、参加された子供さん達や保護者の方からも、大好評であった、高く舞い上がる「竹トンボ」は、高橋　剛会長が丹精込めて手作りされたもので、沢山提供して頂いたとの話があり、写真も拝見させて貰いました。

宴半ばも過ぎて、岩井　久先生のリードで、校歌、寮歌、北辰斜め。を声高らかに歌い終わり、揃って万歳三唱をして、午後３時に解散をしました。

（秋吉　輝夫　記）



第48回東海あらた会
平成26年10月26日（日）
於：名古屋市丸の内２丁目・アイリス愛知

長崎あらた会だより

「平成26年度例会を開催」

長崎あらた会会長　森永鉄美
（S38卒　林学科）

年末恒例の長崎あらた会例会・総会は、突然の衆議院議員選挙が入り日程調整を心配しましたが、選挙直後の平成26年12月20日に開催することが出来ました。

今回の特別講演は、開門裁判等で全国的に関心が高い諫早干拓地について、営農、経営指導そして技術指導に中心的指導者として、県農林部や農林技術開発センターで苦労されている小林雅昭様（S53卒　農芸化学科）にお願いしました。

演題は「諫干春秋」で、干拓の構想・歴史そして事業の経過、排水門開門裁判の経過、問題点などを、指導の直接担当者でしかわからないことを含めてお話しいただき、また技術指導の観点からも入植者の経営問題等貴重なご報告をいただき参加者一同深く感銘いたしました。

祝宴開始に先立ち、今回始めて参加の会員、それに若手女性会員のひとことご挨拶で盛り上がりました。

祝宴は長崎あらた会吉岡庭二郎顧問様の挨拶と乾杯で始まり、参加者それぞれ近況報告や情報交換で時の経つのを忘れるほどでした。

最後の締めは高等農林校歌、寮歌斉唱で青春を復活し、再会を約して終了しました。

なお長崎あらた会会長は今年度で森永が退き、次年度からは山下勝郎（S44卒　農学科）が務めることとなりましたので申し添えます。

クラス会・グループ便り

F31同窓会鹿児島に集う

F31同窓会を平成26年５月20日～21日に鹿児島市照国町温泉ホテル中原別荘に集い２日間の楽しさ一杯の一時を過ごした。

F31同窓会は当初は５年に１回の割合で開催してきたが、お互い年齢も重ねてきたし身近に健やかさを確かめ合い楽しさの倍増をはかろうと、古稀を迎えた平成13年から２年に１回集うことにした。

開催場所も同輩が生活拠点としている箇所を持ち回りにすることにして、福岡、熱海、人吉、岩国、佐世保などで集い今回は３回目の鹿児島での集いとなった。

この間４人の同輩を亡くし、現在21人での絆を深め合っている。

今回は遠くは、千葉、静岡から県外９名県内５名の14名の同窓会となった。

初日は、午後１時30分にホテルロビーに集まり、卒業後58年間の鹿児島市の変貌振りを車窓から見ながら巡ろ

うとマイクロバスにて、午後２時半から３時間の遊覧となった。

我々が入学したのは昭和27年、学舎は現在の歴史資料館黎明館がある旧七高跡の木造のバラック校舎だった。入学後まもなく火災になり学ぶ場所は近くの教育会館や今の名山小学校内にあった理学部の校舎を借りながらの分散授業だった。

このような当時の思い出を胸に、照国神社前から当時の県立図書館の博物館、教育会館西郷銅像、入学当時運動場だった県立図書館や木造校舎跡の黎明館前から県庁跡そして昔の面影をほんのちょっとだけ残している小川町から鹿児島駅、桜島丸ターミナルビル、ドルフインポート前を通り、当時道路一本隔てて海岸沿いにあった水産学部前、鴨池海水場跡、を通り鴨池空港跡の県庁の展望所へと足を進め在学時代馴染んだ鴨池海水場から天保山あたりまでの開発状況に感嘆し、県庁から鴨池動物園跡、騎射場を通り農学部へと向かった。

農学部では、あらた同窓会副会長林さんからいただいた昭和25年当時の農学部の概要図と現在の大学概要図を見比べながらその変わりように驚きながら農学部内を散策した。懐かしい講堂も無く林園あたりが当時を少しは偲ばせてくれたが「大分樹木が大きくなったね、やや荒れた感じがするね」と語り合いながら、玉利池や学生時代林学科の研究室があったのは理学部あたりかな、田園通りあたりかな、寮のあったのはどのあたりかな、と思いをめぐらしながらも当時を偲ばせるものは少なく、年代の移り変わりの変動は進歩だとは悟りながらも、皆やや寂しさを感じながら記念撮影をし農学部を後にした。

農学部からは学生時代なかった唐湊林園を分断し新設された工学部前の電車通りを通り中央駅、天文館、城山展望所へと廻り鹿児島市約60年の変貌振りを実感しホテルへ。夜は参加者14名が八十路の年齢を忘れ大いにはしゃぎ、語り合い、飲み合い、英気をもらい一刻千金の楽しい一時を過ごした。

２日目の５月21日は一路南下し指宿方面に向かった。途中産業道路を走りながら埋め立て地の広さに驚きながら昔の海岸線をも確かめながら南下し喜入の特別天然記念物「メヒルギの北限自生地」を観察しフラワーパークかごしまへと向かった。

フラワーパークでは珍しい樹木や花々を観察しながら林学科出身の片鱗を臭合わせながら語り合い整然と管理された園内に感服し十分に堪能し昼食の唐船峡へと向かう。

唐船峡は初めての人が大部分でその広さに驚いていた。ビールで喉をうるおす人、鯉や鱒に餌をやる人などそれぞれ楽しみながらの昼食の一時となった。

昼食後は池田湖に向かい大うなぎを見て開聞岳を背に記念撮影し指宿スカイラインを通って一路鹿児島中央駅に向かい、２年後の久留米市での次回同窓会での再会を約し14名それぞれ帰途についた。

最後に、今回の同窓会開催に当たり、あらた同窓会副会長林さんに資料提供や農学部の変遷のご教示など色々とお世話になりましたこと厚くお礼申し上げます。本当に有り難うございました。

〒892－0855　鹿児島市冷水町10－3　吉村　一郎

A32同窓生の鹿児島例会と情報連絡紙

昭和32年の農学科卒業生の同窓会活動は、鹿児島大学農学部開学100周年を契機に、晩照の輝きにも似て、老いてなお追いやまぬ想いを寄せ合いながら再燃し、現在も鹿児島例会の開催と情報連絡紙の発行という形で続いています。

鹿児島例会の開催

A32同窓会は、平成21年の開学100周年記念式典前夜、卒業30周年以来22年ぶりに開催し、その勢いもあって平成24年にも実施しました。しかし、北海道から奄美大島にかけて散在する高齢者の参集には困難がつきまとうことなどから、平成25年から５年間は毎年あらた同窓会の前夜に、鹿児島県内に在住する会員を中心に鹿児島市で「A32鹿児島例会」を開いて、県外会員の自由参加を歓迎することになりました。

昨年の第２回鹿児島例会は、大分県日田市の中島三夫氏、宮崎市の杉田　旭氏も参加して総勢12名。築島敬一氏は退院当日の出席でした。標準年齢が傘寿ということもあり、荒田の民家に育った野菊を１本ずつ手にして、記念撮影をしました。みんな懐かしさと嬉しさで時間を忘れて談論風発、終始愉快に盛り上がりました。

第５回の後をどうするか、早くも提案が上がっています。１年おきに開催するか？　会員４人がいる福岡で一度したら？　東京オリンピックの前に下見を兼ねた東京例会はどうか？　既に同窓生の約３分の１が他界している中で、頼もしいことです。また、東京オリンピックの年は平成32年。われわれ昭和32年農学科卒業生と平成32年の生物生産学科卒業生との交流を夢見る意見もあります。

荒田より野菊摘み来て傘寿の宴
第２回鹿児島例会　平成26年11月22日　於：さつま黒潮亭
前列椅子席左から中島三夫、杉田　旭、富岡光則、落合浩英
後列左から松澤宜生、藤瀬正八、福山正雄、大迫尚道、石畑清武、築島敬一、有園　勉、古市吉男

情報連絡紙の発行

近年２回のA32全体の同窓会開催時には、Ａ４版30ページ前後の記念誌や写真集を作成しましたが、鹿児島例会に移行してからは、Ａ４版表裏２ページの情報連絡紙「あらたA32ニュース」を発行しています。

その原型となった第１号は、かつて落合浩英氏、石畑清武氏とともに平成21年の同窓会再燃の火つけ役を果たしてもらった中園和年氏の手による労作です。

私ども９名で毎年２名ずつ担当する鹿児島例会の幹事グループは、そのタイトルを踏襲して、平成26年１月に第２号を、平成27年１月に第３号を発行しました。当初は隔年発行の予定でしたが、会員の死亡が相次いだこともあり、しばらくは毎年発行することにしました。

今年の１月に発行した第３号の１面トップは、上記の第２回鹿児島例会の開催状況の紹介記事です。中段には、元九州大学教授井之上　準氏の「博士に育てた留学生達」と題する特別寄稿文を掲載しました。そのほか、村嶋充氏と永田正弘氏の死亡記事、第３回鹿児島例会の案内や「対岳想」と称するコラムを盛り込みました。

２面は、往復はがきで照会した生存者23名の近況リポートを「花も嵐も踏み越えて今」と銘打って全面を埋めています。病や悩みを抱えながらも淡々と生き抜く姿など、会員相互の刺激になっているようです。その中から、奄美市在住の富岡光則氏の報告を紹介します。

「私は81歳。９年前に妻の脳動脈瘤手術の合併症により介護生活で、炊事洗濯などと暇を見ては農業のまね事で日々を送っています。詩人サムエル・ウルマンは『年を重ねただけでは人は老いない。理想を失うとき初めて老いる』と語っています。お互いにこのことを受け止め、健康に留意して熟年期を充実したものにしたいものです。荒田の学友が１年ぶりに集い人生を語る機会を持てることを心から喜ぶとともに、お互いがこれから生きる勇気を分かち合える機会にできればと、お会いする日を心待ちしております」

（A32鹿児島例会幹事グループ）

有薗　勉、石畑清武、大迫尚道、落合浩英、築島敬一、福山正雄、藤瀬正八、松澤宜生、古市吉男

情報連絡紙「あらたA32ニュース」第３号
１面（左）と２面（右）

「育珍会」（植物育種学研究室同窓会）を開催

植物育種学研究室においては宮司先生ご存命のころから同窓会を「育珍会」と称して毎年正月に開催してまいりました。

また、最近は現役を退いたOBを中心に「おせんし育珍会」を秋に開催しています。昨年は國分先生が『日中韓さつまいもワークショップ』出席のため来鹿される機会にあわせて11月29日鹿児島市内のホテルで育珍会を開催しました。

当日は、國分先生ご夫妻が出席されるということで、故宮司先生の奥様をはじめ、昭和23年卒業の大先輩から平成９年卒業の若手まで半世紀の年齢の枠を超えて、また北は三重県、南は沖縄県から47名の方々に出席いただきました。加えて日中韓さつまいもワークショップ出席のため来鹿していた、当時留学生で現在北京農業大学校教授の劉慶昌氏にも飛び入りで参加していただきました。

会は記念写真撮影後、宮司先生をはじめ、これまで亡くなられた方々に黙とうをささげ始まりました。

最初に昭和32年卒の落合先輩の開会の挨拶のあと、國分先生に近況報告、大学時代の思い出など語っていただきました。

國分先生は現在対馬市にお住まいで晴耕雨読の生活を送っておられるとのことでした。

その後、昭和23年卒育種学研究室初代助手の岡村先輩に乾杯の音頭をとっていただき伊佐時代の宮司先生との思い出など紹介していただきました。

開演後、佐藤先生に育種学研究室の変遷と現状を資料に基づき紹介していただきました。

続いて、主に遠方からの出席者にスピーチをいただき、会を盛り上げていただきました。

久しぶりの再会に國分先生を中心に若いころを思い出しながら、大いに飲みかつ語り、瞬く間に時間が過ぎ去り、昭和51年卒の九州東海大学村田先生の中締めで再会を約しつつお開きしました。

閉会のあと、学生時代を思い出して天文館に繰り出した若い人たちもいました。

楽しく有意義な会が開催できましたことを嬉しく思います。

（昭48卒　菊川明）

学生便り

大学生活で得たもの

生物生産学科
園芸生産学講座
蔬菜園芸学研究室
山崎　佑剛

この時期になるとみんな口を揃えたかのように同じことを言う。「４年間早かった。もう卒業か…。」と。私ももれなくその一人である。

大学に入学した頃は遠い県外、初めての一人暮らし、全てが新鮮であり不安であったと思う。そんな中で同じ出身地の友人ができ、数人で集まるグループができ、後々振り返ってみるとどうやって友達を作っていったのかと思うが、自然に出来ているものだと感じる。次第にバイトを始めて交流が増え、実習や研修で交流が増え、研究室に配属されて交流が増え、気付けば充実した生活となっていた。

大学生活を思い返すと様々なことがあった。その根底に掲げたテーマは「経験」である。アルバイトやベトナムへの海外研修、一人旅、大人数での旅行、菜の花マラソン、登山などなどこの原稿を書くために写真を見返したりして懐かしんでいるところである。しかし、その一方で「あれもしておけばよかったな…」と思うことも多々あるものだ。

私は元々内向的な性格だが、その性格もこの4年間で大分変わったと思う。基本的にゆったりしていることは変わらないが、「大学生の内に出来ることはやろう！」と思うようになり、何かやる時の行動力は周囲からもネタにされるほどである。「課題があるから、バイトがあるから」と言って諦めずに（もちろんやることはやった上で）行動に移す。行動に移した結果、身に付くこと見えてくることもある。もちろんやらなければ良かったと思うこともあるかもしれないが、やらずにモヤモヤするよりは思い切ってやってスッキリするのも一つの手である。それは大学生活という限られた時間があったからなのかもしれないが、これからも同じように時が経つのは早く感じ、隙あらば何かやろうと企みながら過ごしていくのだろうと思う。

４年間とこれから

生物資源化学科
生命機能化学講座
生分子機能学研究室
山口　　蘭

鹿児島に来て、大学生になって、一人暮らしを始めて、４年。この執筆依頼を受けてから改めて、この４年間を振り返ってみました。短く感じた４年間でしたが、研究に部活にボランティア、アルバイトに旅行、仲間、友達と、それだけ多くのことが思い出されました。

新幹線も開通するし、行けるならこの際遠い所へという軽い気持ちで鹿児島まで来ました。想像以上に気候から言葉から文化から何もかもが違い、春と秋の短さと何より降ってくる灰の存在に戸惑いました。今では鹿児島弁にも長い夏にも慣れ、灰に対しても諦めがつくようになりました。

２年の前期まで授業は座学ばかりで理解できることもあれば、理解できないことも多かったです。２年後期から実験がはじまりそれまで学んだことと結びつくようになると、より楽しいと思えるようになりました。「大学院に行きたい」高校時代からそう言って大学に入学しました。高校からの思いは変わらず４月からは大学院に進学します。医学部にも院があることを知ったのは、今の研究を選んだことがきっかけでした。共同研究で医学部の研究室に行くようになり、もちろん３年間農学部で学んだ分野とは全く異なっていて、最初は言われたことをするのが精一杯でした。でも、一から新しいことを学べる面白さや他種の分野の人と触れ合えること、また、今では自分で考え、研究を進めることができるようになった楽しさがあります。今の研究を続けたい思いや農学部とはまた違った経験ができることもあり、医歯学総合研究科に進学することを決めました。

友達の多くは県外に就職し、寂しい気持ちもありますが、あと２年間学生ができることを幸せに思い、親に感謝し、研究に励みたいと思います。

大学生活を通して

生物環境学科
森林科学コース
森林計画学研究室
板谷　洋輔

鹿児島大学に来て４年間、あっという間に過ぎた大学生活に感じます。元々九州には縁もゆかりもなかったので、鹿児島に来てしばらくはさみしさと地元の懐かしさを感じていました。しかし鹿児島に来た理由も農学部に来た理由も自分の中で確固たるものがなかったためか、大学に入学したての頃は退屈な生活を送っていた気がします。

大学生活を振り返ると１、２年生時は部活動に、３、４年生時は研究室の方に重点をおいた日々を過ごしました。部活動は昼夜を問わず、友人たちとともに練習に励んでいたことを思い出します。研究室に入ってから、特に４年生の時には就職活動や卒論を通して様々な人や物事を知ることができました。４年間を通して先生方や先輩・同期のお世話もあり、以前の自分より考えや行動が進歩できたのではないかと感じています。今では色々なことを話せる知り合いや友人ができたことに感謝しています。また、大学生活を支えてくれた両親・親戚一同にも感謝しています。この４年間の大学生活、退屈することなく生活を送ることができたと思いました。

来年度からは、同大学の大学院に進む予定です。大学院は日常生活や研究室で過ごす期間も就職活動等を含めても２年間と学部生の時と違って短くなります。また、自分の周りの人たちは自分より一足早く社会にでることになります。周りの人たちの成長に負けないよう、院生になってからも今よりもっと知識や視野を広げ、一人前の人間になれるよう今後とも努力していきたいと思います。

大学生活を振り返って

農学部獣医学科
遠矢　翔太

ちょっと遠回りをして、私はこの鹿児島大学の獣医学科に入った。憧れていていた世界の入り口に辿り着いた喜びは今でも鮮明に覚えている。憧れていた世界が現実になってから６年、本当にたくさんのことがあった。もちろん楽しいことばかりではなかったし、つらいこともたくさんあったがそれらのひとつひとつが今の私の大切な思い出となっていることは言うまでもない。ちょっとだけ思い返してみると、２年生の時は病気で入院し、３年生の時は病気で手術をし、６年生の時は卒論と国試で慌てていた気がする。今のところつらい思い出しか振り返っていないが、こんな風にいろいろあったつらいことを乗り越えてこられたのは、多くの仲間の存在と、励ましをくれた家族の存在がある。わがままな私を支えてくれた人たちに感謝したい。もちろん楽しかった思い出もたくさんある。特に、みんなで行った牧場実習では１週間近くみんなと過ごしてたくさんの思い出ができたとクラスメートが言っていた。ちなみに私は病気で行っていない。ちょっとだけ寂しい。ただ、その夜にもらった電話は紛れもなく私の素敵な思い出のひとつだ。

大学生活は同じ志を抱くクラスメートと共に過ごす大切な時間であり、いろいろな価値観を持った大人と巡り合える貴重な時間でもあった。そして、６年経った今、入学当時に描いていた夢とはちょっとだけ違う目標に向かっている。そんな目標を持つことができたのも、この大学生活の間に出逢ってきたたくさんの人たちのおかげだと思っている。その目標を少しずつ形にしていくことが素敵な出逢いと時間をくれた人たちへの恩返しだと思っている。次に大きく成長した仲間たちと再会できる日を楽しみにこれからも頑張っていきたい。

恩師・同窓のお慶び並びに訃報

先生の退職・新任・昇任

【農学部】

【定年退職】

佐々木　修　平成27年３月31日付
（生物生産学科　作物生産学講座　教授）

佐藤　宗治　平成27年３月31日付
（生物生産学科　作物生産学講座　教授）

冨永　茂人　平成27年３月31日付
（生物生産学科　園芸生産学講座　教授）

岩元　　泉　平成27年３月31日付
（生物生産学科　農業経営経済学講座　教授）

遠藤　日雄　平成27年３月31日付
（生物環境学科　森林管理学講座　教授）

【新任】

加治佐　剛　平成26年４月１日付
生物環境学科　森林管理学講座　准教授

神田　英司　平成26年４月１日付
生物環境学科　環境システム学講座　准教授

藤澤　義武　平成26年11月１日付
生物環境学科　森林管理学講座　教授

長谷川安代　平成26年12月１日付
国際食料資源学特別コース　特任講師

奥山洋一郎　平成27年２月１日付
附属演習林　特任准教授

濱中　大介　平成27年２月１日付
生物資源化学科　食糧生産化学講座　准教授

【昇任】

藤田　清貴　平成26年６月１日付
（生物資源化学科　生命機能化学講座　准教授）

大塚　　彰　平成26年８月１日付
（生物資源化学科　食品機能化学講座　教授）

吉田理一郎　平成27年２月１日付
（生物生産学科　園芸生産学講座　准教授）

【共同獣医学部】

【辞職】

瀬戸口明日香　平成26年12月16日付
（獣医学科臨床獣医学講座　准教授）

野口　倫子　平成27年３月31日付
（獣医学科臨床獣医学講座　助教）

【新任】

橘　由里香　平成26年４月１日付
附属動物病院　特任助教

乙丸孝之介　平成26年４月１日付
附属動物病院　特任助教

山﨑　裕毅　平成26年６月１日付
附属動物病院　特任助教

秋岡　幸兵　平成26年11月１日付
獣医学科病態予防獣医学講座　特任助教

物故者名簿

謹んで哀悼の意を表します

故人氏名	科・卒年	死亡年月日	ご遺族の住所およびご遺族名	
宮　尾　　陟	旧 賛 助	H.２０.６.３	東京都練馬区石神井町２－35－36	子息　聡
柚 木　弘 之	旧 賛 助	H.２６.４.１０	東京都国立市中２－17－24	夫人　照子
住 本　昌 之	旧 賛 助	H.２６.３.１	福岡市東区美和台３－11－７	子息　英樹
伊 藤　三 郎	旧 賛 助	H.２６.４.２７	千葉県鴨川市和泉1521－１	夫人
林　　茂 樹	A.T.　8		大阪府豊能郡能勢町山辺奥山	
三 原　義 秋	A.S. 10		鹿児島市西俣町2077－３	
白 木　隆 次 良	A.S. 14		福岡県宗像市赤間５－１－４	
立 川　哲 三 郎	A.S. 18	H.２５.７.	愛媛県松山市正円寺４－１－37	夫人
屋 敷　安 雄	A.S. 18	H.２４.６.	愛知県名古屋市天白区久方１－153　相生山住宅42－501	
満　　重 信	A.S. 22	H.２６.９.１４	愛知県名古屋市守山区藪田町213	子息　哲朗
赤 塚　二 男	A.S. 23	H.２５.３.	埼玉県さいたま市浦和区瀬ケ崎２－９－１－705	子息　賢二
川 越　祥 三 郎	A.S. 23	H.２６.３.	京都府京都市左京区高野西開町34－９－407	令嬢　真奈
佐 野　有 村	A.S. 24	H.２６.５.２４	福岡県宮若市磯光271－２	夫人　ヨシノ
小 野　幸 市	A.S. 28	H.２６.２.２７	大分県大分市城南南町４組	夫人
有 馬　慶 彦	A.S. 30	H.２６.３.１２	鹿児島県霧島市牧園町三体堂2304－14	夫人　愛子
永 田　正 弘	A.S. 32	H.２６.６.３０	埼玉県狭山市入間川１－23－９	夫人　昌子
吉 利　用 徳	A.S. 40	H.２６.１.２	鹿児島市光山１－９－17	夫人

故人氏名	科･卒年	死亡年月日	ご遺族の住所およびご遺族名	
溝口　忠士	A.S.別23		鹿児島市西陵２－２－11	
大草　義夫	F.S. 17	H.２６.８.１１	山口県山口市金古曽町８－18	子息
八反田　典人	F.S. 19	H.２５.５.９	京都府京田辺市大住ケ丘１－12－24	子息　谷口幸典
竹山　茂	F.S. 23	H.２６.１０.２５	鹿児島市西陵５－８－12	夫人　貞子
中村　吉秀	F.S. 23	H.２６.８.１５	鹿児島県霧島市隼人町内1175－１	夫人
平岡　英雄	F.S. 28		鹿児島市吉野町742－25	
鶴田　寛治	F.S. 48	H.２０.	愛知県豊田市岩滝町立花188	夫人
上島　忠紀	S.S. 16		鹿児島県大島郡喜界町伊砂441	
佐無田　穆	S.S. 22	H.２４.５.１９	熊本県人吉市七日町85－３	子息　学
岡田　兼雄	S.S. 23		鹿児島県姶良市加治木町諏訪町117－４－１Ｆ	
水流　照男	S.S. 23	H.２５.５.	鹿児島県指宿市湊４－２－４	
馬場　一堯	S.S. 24	H.２３.８.４	熊本市中央区水前寺１－25－20	子息　文章
東　嘉昭	S.S. 25	H.２５.８.２９	鹿児島県南さつま市金峰町大野1433	夫人
西谷　俊昭	S.S. 34	H.２６.１.１１	鹿児島県薩摩川内市樋脇町塔之原7267	夫人
林　正人	S.S. 39	H.２６.３.１９	鹿児島県霧島市国分清水４－20－14	夫人
山下　虎一	C.S.　8		鹿児島市東桜島町268	
片岡　秀雄	C.S.　8	H.２０.９.		
浜田　潔	C.S. 16		愛媛県今治市上浦町瀬戸2230	
野方　俊介	C.S. 17	H.２６.７.	熊本市神水本町６－86	夫人　昌
棚原　清一	C.S. 19	H.２４.４.	沖縄県宮古島市平良下里1002－１	
平原　久子	C.S. 46	H.２５.１１.３	鹿児島県薩摩川内市平佐町3090－６	夫
野口　直助	V.S. 16			
金丸　毅	V.S. 17	H.２１.９.９	鹿児島市紫原２－27－19	子息　淳
辻　教幸	V.S. 17	H.２１.１１.１９	佐賀市光２－４－35	
百武　輝彦	V.S. 17	H.２２.５.２８	鹿児島県志布志市松山町泰野3465	子息　照博
前田　省三	V.S. 17	H.１９.３.２１	鹿児島県霧島市隼人町野久美田353－１	
楠元　薩男	V.S. 18	H.２６.４.１３	鹿児島市草牟田２－54－11	夫人　クニ子
佐々木　榮一	V.S. 18	H.２１.６.５		
中村　穣	V.S. 18	H.２３.１.１１	佐賀県鹿島市山浦乙435－１	
濱島　清信	V.S. 18	H.２２.５.１	岐阜県各務原市鵜沼朝日町５－283	
濱田　一郎	V.S. 18	H.１７.７.	鹿児島市犬迫町11524	
松窪　重信	V.S. 18	H.２０.１.１７	鹿児島市原良町１－15－21	夫人　イネ
大内山　廣徳	V.S. 19	H.２３.	鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉569－19	
郡山　不二夫	V.S. 19	H.２３.１２.２	鹿児島県姶良郡湧水町川西2226	夫人　妙子
徳村　孝	V.S. 19	H.２３.１２.	鹿児島県出水市上知識町743	
柚山　憲一	V.S. 19	H.１８.６.１４	東京都西東京市新町２－８－８	夫人　美知子
池元　定男	V.S. 20	H.１７.１２.２９	鹿児島県指宿市十二町3370	
岩屋　正一	V.S. 20	H.２５.１１.３０	福岡市早良区百道１－17－１	
大島　武敏	V.S. 20	H.１５.３.	島根県大田市仁摩町仁万443－１	
大坪　孝雄	V.S. 20	H.２４.１２.１１	宮崎市堀川町127	夫人　福子
柿元　司	V.S. 20	H.２５.１０.	鹿児島県姶良郡蒲生町米丸597	子息　峰信
久木田　禧一	V.S. 20	H.２０.４.１４	東京都武蔵野市吉祥寺本町４－19－13	
勝田　守博	V.S. 20	H.２０.５.１５	熊本市中央区保田窪４－14－37	
高良　政弘	V.S. 20	H.１６.９.７	沖縄県那覇市牧志２－13－２	夫人　文子
原口　元四郎	V.S. 20	H.２４.４.１８	鹿児島市桜ケ丘２－12－11	
堀　晏	V.S. 20	H.１８.１２.２８	福井市若杉浜３－107	夫人　令子
石岡　廣一	V.S. 22	H.２４.１０.１０	熊本市中央区出水７－45－５	
今村　和堯	V.S. 22	H.２５.３.１０	鹿児島市下伊敷１－42－17	
坂梨　一夫	V.S. 22	H.２０.７.１９	熊本市中央区八王寺町16－23	夫人　民子
辻川　正見	V.S. 22	H.２５.１２.８	長崎県壱岐市郷ノ浦町郷ノ浦38	夫人　昭代
友栗　武盛	V.S. 22	H.２５.７.３０	熊本市北区龍田陳内１－11－28	夫人　さつ子
中島　徹	V.S. 22	H.２５.９.２３	熊本県天草市有明町小島子1372	夫人　桂子
樋渡　公人	V.S. 22	H.１６.３.９	佐賀県西松浦郡有田町大木乙2984	夫人　範子
福島　忠	V.S. 22		鳥取県倉吉市湊町268	
藤崎　卓	V.S. 22	H.１６.５.４	鹿児島市甲突町26－５－403	夫人　和子
家永　悌次郎	V.S. 23	H.２５.１.２８	福岡市南区多賀１－11－321	
江原　茂	V.S. 23	H.１８.１１.２２	福岡市城南区七隈７－16－32	
大崎　熊雄	V.S. 23	H.１５.１０.９	長崎市江平３－８－20	子息　義郎

故人氏名	科･卒年	死亡年月日	ご遺族の住所およびご遺族名	
大塚　慶一	V.S. 23	H.17.9.17	熊本市長嶺町１－３－131	
西之原　典雄	V.S. 23	H.26.3.5	鹿児島市池之上町７－４	夫人　多美枝
橋口　昭男	V.S. 23	H.22.5.28	鹿児島市希望ケ丘町９－13	夫人　敏子
本田　吉典	V.S. 23	H.21.9.27	鹿児島県霧島市国分中央２－21－１	夫人　哲子
松村　彦七郎	V.S. 23	H.15.9.10	熊本市中央区東子飼町７－２	
横山　豪郎	V.S. 23	H.25.3.22	鹿児島市桜ケ丘５－18－４	夫人　多津
後藤　文人	V.S. 24	H.20.6.	大分市高江中央１－46－２	
秋山　勝美	V.S. 25	H.17.4.22	福岡県北九州市小倉南区下曽根３－９－８	
池之上　四男	V.S. 25	H.20.3.29	鹿児島県薩摩川内市御陵下町30－６	
鍛冶屋　秋丸	V.S. 25	H.20.11.20	鹿児島市宇宿町734	
志田　治達	V.S. 25	H.18.9.16	東京都八王子市鹿島16－１－205	
近常　正輝	V.S. 25	H.21.7.29	栃木県宇都宮市鶴田町3653－17	夫人　みね子
松崎　恵一	V.S. 25	H.20.2.9	鹿児島市西千石町５－９	夫人　朝子
湯ノ口　幸一	V.S. 25	H.26.1.8	鹿児島市紫原３－55－22	夫人　市子
天野　雄幸	V.S. 26	H.21.6.10	埼玉県さいたま市桜区白鍬423	夫人　洋子
川上　利隆	V.S. 26	H.15.5.6	千葉県館山市浜田312－２	夫人　まさ子
河野　福督	V.S. 26	H.23.11.10	長崎県諫早市飯盛町里1147	令嬢　田平仁子
野上　堅一郎	V.S. 26	H.16.10.10	東京都東久留米市本町２－４－７	夫人　武子
弓場　照雄	V.S. 26	H.19.1.2	鹿児島県姶良市加治木町木田3922－３	
有満　秀夫	V.S. 28	H.25.9.22	鹿児島県姶良市加治木町反土762－48	夫人　シヅ子
坂本　司	V.S. 28	H.23.	北海道札幌市南区澄川五条11－５－８	
高良　一成	V.S. 29	H.16.7.	鹿児島市玉里団地１－１－５	
古木　重孝	V.S. 29	H.19.11.17	福岡県北九州市小倉南区上吉田５－21－15	
中薗　良一	V.S. 29	H.19.8.24	鹿児島市錦江台１－15－８	
古川　定石	V.S. 30	H.16.7.5	茨城県つくば市高野台３－10－51	夫人　能江
前原　幹夫	V.S. 30	H.18.9.16	鹿児島市喜入中名町6139－１	
西富　宗雄	V.S. 31	H.17.5.24	鹿児島市田上５－25－16	夫人　京子
川崎　康邦	V.S. 32	H.16.4.1	鹿児島市東谷山３－32－５	夫人　サチ
八谷　信孝	V.S. 32	H.22.8.31	長崎県西海市西海町川内郷1033－１	夫人　里美
丸山　幸男	V.S. 32	H.22.4.30	宮崎市神宮東３－５－26－302	
西薗　正松	V.S. 34	H.25.4.7	鹿児島市明和１－23－５	夫人　文子
山田　長年	V.S. 34	H.16.4.20	長崎県大村市立福寺町1177	
野元　清明	V.S. 35	H.25.6.	鹿児島県霧島市隼人町姫城２－33	
安武　純孝	V.S. 35	H.19.6.3	熊本市中央区帯山２－14－８	兄　敬昭
逆瀬川　眞泰	V.S. 36	H.23.	鹿児島市上福元町2900－１	
小野　輝男	V.S. 37		愛媛県今治市神宮甲150－６	
國廣　孝之	V.S. 37	H.24.11.	福岡県糟屋郡篠栗町和田908－４３	
野尻　盛喜	V.S. 37	H.26.2.1	鹿児島県肝属郡南大隅町佐多伊座敷3023	
丸目　多喜男	V.S. 37	H.26.2.23	鹿児島市東谷山１－69－１	夫人　敬子
本山　久信	V.S. 37	H.21.12.1	岡山県総社市真壁1425－６	
和田　洋	V.S. 37	H.24.11.11	鹿児島市吉野町3314－１	夫人　規子
友村　榮一	V.S. 39	H.22.7.13	福岡市南区曰佐４－37－18	
佐野　正紀	V.S. 40	H.23.2.18	福岡県飯塚市柳橋624	
平川　浩資	V.S. 41	H.20.11.17	広島県福山市松永町３－11－37	夫人　照子
本田　博志	V.S. 41	H.18.	熊本県宇土市花園町2118	
橋本　史	V.S. 42	H.24.12.25	福岡県春日市桜ケ丘８－57	夫人
大町　司志	V.S. 44	H.24.2.29	鹿児島市吉野町2320	夫人　和子
斉藤　勝弘	V.S. 44	H.19.5.26	滋賀県守山市吉身５－８－９	夫人　秀子
鳥里　洋社	V.S. 44	H.20.10.24	鹿児島県西之表市西之表7423－12	
高江　行一	V.S. 47	H.22.4.28	鹿児島県鹿屋市寿３－３－10	
竹下　進	V.S. 47	H.13.3.12	鹿児島県日置市伊集院町麦生田727－65	夫人　ふき子
竹山　健志	V.S. 47	H.16.11.2	千葉県市川市柏井町２－1423－44	
岩月　妙子	V.S. 52	H.25.10.24	鹿児島市星ケ峯４－16－３	
小田　公司	V.S. 54	H.25.10.16	鹿児島県姶良市西餅田3193－17	夫人　弥生
上村　亮三	V.S. 56	H.27.1.8	鹿児島市唐湊１－４－２－609	夫人　祐子
三輪　晃一	G.S. 36		鹿児島市西陵７－33－６	
田島　准一	G.S. 41	H.24.9.26	鹿児島市西陵１－33－２	夫人
鶴重　矩雄	Z.S. 46	H.23.3.27	福岡市東区奈多団地６－105	夫人　まち子

本部便り

1．平成25年度新規事業報告

1）会報配布の制限緩和

近年、本会の会費収入には漸減傾向が認められています。本会では、これまで毎年発行する会報の配布先を「80歳以上の会費免除者」、「終身会員登録者」、並びに「直近の５年間に会費納付実績のある者」に限定してきました。この配布制限によって会員との意思疎通が著しく阻害され、これが会費収入の漸減の要因であろうとの指摘をうけ、役員会等で対策について検討を重ねてきました。

そして、平成26年３月発行の会報(春季号)の「本部便り」に本会の会計収支の現況と当面の対策並びに再生に向けた取り組みを説明し、会員に協力を要請しました。

同窓会活動の復活には会員との意思疎通が不可欠であるとの観点に立ち、これまで設けてきた上述の会報配布の制限を解除することとしました。そして、今年度は経費等を考慮して取敢えず同窓会活動への参加者が多い昭和40年代及び50年代卒業者全員を配布先に追加し、年会費の納付を訴えました。

その結果、平成25年度の一般会計決算では、年会費の納付者が前年度よりも延べ263名増加し、収入額が前年比52万７千円の増収となりました。この増収は会報の配布方法の改正並びに再生に向けた対策に対する会員のご理解・協力の賜物に外なりません。しかし、いまだ大半の会員が年会費未納であり、今後は、会費納付率の改善を最大の課題と位置付けて、全員参加型同窓会の再建を目指して参ります。

平成27年３月発行の会報は、平成９年以前の卒業者全員に配布します。また、平成28年３月発行の会報は全会員への配布を目指します。

2）会報賛助金

前項の会計の健全化対策は、会報の配布範囲を全会員に拡大し、会員との意思疎通を盛んにして健全化を達成しようとするものでありました。しかし、この事業の実施には出版費や通信運搬費等の経費の増額を伴い、これは当会にとって過重であると予想されました。そこで、会報発行の諸経費の一部に充当する「会報賛助金」を募ることとしました。そして、この会報賛助金は80歳以上の会員、終身会員、並びに旧賛助会員の方々に援助・醵出をお願いしました。

現在の会報賛助金は、204名の方々の協賛を得て、1,040,876円の多額の浄財をいただきました。

また、本事業は本年度も継続いたしますので、多数の方々に協賛をお願いします。

21ページに「会報賛助金」に協賛頂きました方々のご芳名を掲載しています。

2．事業及び会計に関する報告

1）平成26年度総会

平成26年度総会は平成26年11月23日、15：00～、鹿児島市上荒田町のジェイドガーデンパレスにおいて開催されました。

恒例の講演会は、農学部長の冨永茂人教授に、「気候温暖化と南九州の果樹栽培」の講話をお願いしました。

講演会に引き続き開かれた総会の審議事項は、（１）平成25年度の事業報告、（２）平成25年度の一般会計、名簿特別会計および功労者表彰特別会計の収支決算、（３）平成25年度の会計監査報告。（４）平成26年度事業計画（案)、（５）平成26年度の一般会計、名簿特別会計および功労者表彰特別会計の収支予算（案）であり、事務局から上程され、審議の結果、いずれも異議なく承認されました。

総会に引き続き、あらた同窓会功労者表彰式が開催されました。10名の功労者に対して、功労者表彰状並びに副賞が贈呈されました。(20ページを参照)。また、表彰式に引き続き祝賀会が催され、祝賀会には鹿児島県民表彰を受賞されました花木常夫氏（V26）にも出席していただき受賞を祝いました。

2）平成26年度評議会

平成26年度評議会は、平成26年11月12日、17：30～、あらた同窓会記念会館で開かれました。

協議事項は、総会に付議する事項の審議並びに功労者表彰の授賞者の決定でした。

議案は、（１）平成25年度事業報告（案)、（２）平成25年度の一般会計収支決算（案)、及び名簿特別会計決算(案)、（３）平成25年度会計監査報告、（４）平成26年度の事業計画（案)、（５）平成26年度の一般会計予算（案）および名簿特別会計予算（案)、（６）功労者表彰についてでありました。

上程された議案の中で（２）平成25年度一般会計収支決算の赤字に関しては、会費納付者の大幅な減少並びに今年度会報の配布範囲を拡大したことに伴う経費増に起因する旨の事務局からの説明がありました。さらに、この赤字解消に関しては、今年度の常任幹事会で会計健全化に向けた対策を検討し、具体的な事業計画案を作り、

役員会に諮ったうえで事業を実施したい旨の説明があり、審議の結果、すべての議案は承認されました。

３）常任幹事会及び幹事会

平成25年度の常任幹事会及び幹事会は合わせて４回開催し、春季及び秋季会報の発行、ホームページの管理、講演会の企画・実施、評議会及び総会に付議する議案書の作成、などについて協議を行いました。さらに、常任幹事会では一般会計の収入改善に向けた事業企画について協議し、慣行の会報配布方法を一部改正し、会報を全会員に配布して全員参加型のあらた同窓会の再生を目指すとともに、会報賛助金を新設して、その協賛金を会報発行部数の増加に伴って派生する諸経費の一部に充当する企画案を作成しました。

４）会計監査

平成25年度の会計監査は、平成26年10月17日に吉山安夫、菊川明及び下川悦郎監事によって実施され、事業及び会計事務が適切に執行されている旨の報告書が会長宛てに提出されました。

５）会報の発行

あらた同窓会報は３月25日に春季会報、11月23日に秋季会報が発行されます。

本会報の本部便りの新規事業報告の項で述べた通り、春季会報は発行部数を増やし、これまでの配布範囲の制限を一部解除して、慣行の配布対象者以外に昭和40年代及び50年代の卒業者全員を加えて配布されました。

秋季会報は、学生会員向けに発行されていますが、支部総会時に一括送付して会員に配布されています。

６）学生向け講演会

本会と農学部が共催する学生向け講演会は、今年は２回開催しました。７月23日の講演会は、農学部生物資源化学科食品分子機能学研究室の坂尾こず枝助教に「Life is a series of making choices」の講話をお願いしました。

9月22日の講演会は、昭和39年農学部農芸化学科卒業、元神戸市役所職員の田中慶秀氏に「先人が後輩に遺してくれた防災の話」の講話をお願いしました。両講演の要旨は11月23日発行の26年学生向け秋季会報に掲載されております。

７）支部会員との交流

本会は、地域支部から役員派遣の要請を受けた場合、役員を支部総会に派遣します。今年度の派遣先は、東海あらた会、熊本あらた会、長崎あらた会、佐賀あらた会、宮崎あらた会、近畿・兵庫あらた会、鹿児島あらた会、鹿児島市役所あらた会でした。

８）鹿児島大学同窓会連合会

同窓会連合会は設立10周年を迎えました。連合会では年間２冊の会報を発行しています。本会では、地域支部総会時に支部宛に会報を一括送付して会員に配布しました。

９）あらた同窓会功労者表彰

標記功労者表彰の規定は、2009年に実施された鹿児島大学農学部開学100周年記念事業にあたり制定され、今後５年毎に実施することが謳われています。

選考委員会は、全国19地域に組織されている同窓会支部の支部長並びに本部事務局に功労者候補者の推薦を依頼し、推薦された候補者につき審査を行い、10名の受賞者を決定しました。第２回表彰は、平成26年11月23日に開催された本部総会の席上で行われました。

功労者の芳名と授賞理由等は以下の通りです。

受賞者ご芳名

氏　名	推薦母体	学科・卒年	年齢	役員歴並びに功績
岩　永　重　義	北海道	獣医・20	９０	会長29年・支部発展に寄与
亀　山　和　夫	東　海	獣医・16	９３	副会長26年・支部発展に寄与
吉　山　文　蔵	佐　賀	獣医・29	８２	会長12年・支部発展に寄与
山　田　勝　彦	熊　本	獣医・18	９２	顧問・幹事等42年間
川北　太喜男	熊　本	林学・24	８５	顧問・副会長等35年間
坂　井　定　義	熊　本	農学・36	７５	顧問・会長・監事等33年間
宮　本　十　郎	本　部	繊維・23	８６	開学100周年記念事業に貢献
櫛下町　鉦敏	本　部	農学・38	７３	本部・支部役員・100周年記念事業に貢献
浮　津　　護	本　部	林学・38	７３	本部・支部役員・100周年記念事業に貢献
堀　切　俊　幸	本　部	農学・39	７２	本部副会長・100周年記念事業に貢献

会報賛助金の協賛者ご芳名　204名

学科卒年	氏　名
旧賛助	赤井　英夫
旧賛助	遠矢　幸伸
旧賛助	井上　祐一
旧賛助	藤井　　信
旧賛助	竹田　靖史
旧賛助	岩堀　修一
旧賛助	田邊幾之助
AS18	池田　克文
AS18	安田　　繁
AS19	有村　裕郎
AS20	横山佐太正
AS20	斉藤　正夫
AS20	佐藤　安一
AS22	大山　利美
AS22	畑添　雅男
AS22	宗　　功
AS22	春松　　高
AS22	宝満　正治
AS22	大渕　　深
AS23	町田　渥美
AS23	石堂　隼人
AS23	渡邉　忠治
AS23	是澤　儀明
AS23	福留　達夫
AS23	谷　　弘
AS24	山下　美好
AS24	城戸　典弘
AS24	村上　雅二
AS24	佐野　有村
AS25	深町　十吾
AS25	武内　　斉
AS25	田上不二夫
AS25	江畑　正之
AS25	竹下　基之
AS26	八幡　正則
AS26	桐原　　平
AS26	中島　英男
AS26	加治屋　哲
AS28	寺尾　正徳
AS29	井上　晃一
AS29	逆瀬川國男
AS30	國分　禎二
AS31	佐竹　虎雄
AS32	古市　吉男
AS32	富岡　光則
AS32	永田　正弘
AS36	山元　静也
AS36	原田　　滓
AS37	清水　博之
AS38	冨永　文治
AS38	川村　史郎

学科卒年	氏　名
AS39	今屋　　洋
AS39	堀切　俊幸
AS39	今村　達郎
AS40	山田　健一
AS41	若松　隆久
AS41	岩猿　敬文
AS41	脇　秀一郎
AS42	江田　耕造
AS44	石原　　宏
AS45	内田　義徳
AS47	池端　裕昭
AS47	畑中　幹信
AS47	橋本　　洸
AS49	山村耕一郎
AS49	佐野　岩男
AS49	上原　平一
AS52	平井　正明
AS53	佐々木幸子
AS57	徳永　敏信
AS61	上福元　彰
AS62	河口幸一郎
FS17	山田　宗之
FS18	土永　　博
FS20	川上　徳光
FS20	四元　春夫
FS22	時崎　勝彦
FS22	山内　孝平
FS22	木村　義章
FS22	山本　　稔
FS22	谷口善次郎
FS23	中村　吉秀
FS23	久恒　政雄
FS23	川野　哲夫
FS23	永渕　郁郎
FS24	竹添　重信
FS24	加藤　敏雄
FS25	田中　　稔
FS25	川畑　克己
FS25	國分友三郎
FS26	安武次郎太
FS26	角　　太
FS28	濵田　武徳
FS28	田丸　　正
FS29	内　　邦博
FS31	濵田　直章
FS31	岩崎　健生
FS31	原田　俊一
FS31	野口　英昭
FS32	後迫　　巌
FS35	落合　寅夫
FS36	有薗　哲也

学科卒年	氏　名
FS39	斉藤　輝二
FS39	西田　孝義
FS41	溝添　俊樹
FS42	井上　克己
FS44	中原　一郎
FS51	泊賢　一郎
FS53	小宮　　康
FH 4	堀　　智弘
SS19	北村　勝彦
SS22	増田　信己
SS23	巣山　弘明
SS24	藤川　一雄
SS26	上川喜三郎
SS29	橋口　　勉
SS30	永田　鉄山
SS35	川島　　進
CS13	種子田種雄
CS18	今古賀　宰
CS18	吉原　　泉
CS19	谷口　　渡
CS19	種子島一弘
CS20	佐多　　央
CS22	井尻　敏文
CS22	前田　忠二
CS23	鮫島　逸郎
CS23	津野　林士
CS23	林　　和彦
CS25	古川　良英
CS26	馬場　三巳
CS26	松久保好太朗
CS28	仮屋　寛種
CS28	徳留　昭一
CS29	迫田　　太
CS29	宇田川義夫
CS29	高屋　重夫
CS29	森園　岩夫
CS30	福永　隆生
CS31	小野敬一郎
CS32	堀之内　正
CS33	佐藤　　守
CS36	松原弘一郎
CS37	堀田　宗浩
CS38	竹添　　進
CS38	日高　啓輔
CS38	高尾　忠行
CS40	村上　　暁
CS44	楠田　　潤
CS47	瓜生　直樹
CS49	片岡登喜男
CS50	西澤　保孝
CS52	酒井　知子

学科卒年	氏　名
CS59	宇都宮裕子
CS59	村元　　晃
VS19	田島　　優
VS19	渡邊　義久
VS22	佐川　文夫
VS22	井出　義男
VS22	平山慶太郎
VS22	福田　　昌
VS22	横山　　修
VS23	竹内　正郎
VS23	中園　　明
VS23	橋口　昭男
VS24	久保田　稔
VS25	川畑　昭夫
VS26	岩松冨美子
VS26	渡辺　幸博
VS29	吉山　文蔵
VS30	三浦　哲夫
VS33	秋吉　輝夫
VS37	石田　文洋
VS41	石黒　　茂
VS51	水野　三男
VS54	小田　公司
VS55	本山　健次
VS60	臂　　博美
VH 2	中村　　修
VH12	蓮沼　　浩
VH24	坂本　英一
GS35	中馬越一馬
GS36	髙倉喜八郎
GS37	山下　政喜
GS38	迫　　一徳
GS38	東　　正隆
GS39	植谷　治夫
GS41	田島　准一
ZS46	後迫　敏幸
ZS47	的野　英夫
ZS54	河野　信義
ZH 5	上田　治子
ES45	里中　義昭
ES49	大里　正明
ES62	井上　宗円
HS51	原　　耕
HS52	立木　まり
HS56	酒瀬川洋児
HS58	清原　良博
HS59	中村　秀人
生 H 8	伊藤　直樹
生 H14	橿原　　敏
資 H23	本多　聡志
環 H24	若松ちさと

平成25年度一般会計決算書

収入額　6,150,000円　　支出額　5,116,257円
繰越金　1,033,743円

収入の部

項　目	予算額	決算額	差　異	
会費	4,650,000	4,761,000	△111,000	
年会費	2,200,000	2,420,000	△220,000	延べ1,210名　前年比263名増
入会金	2,050,000	2,096,000	△46,000	新正会員 12名(36,000) 在校生　23名(230,000) 新入生　183名(1,830,000)
懇親会費	400,000	245,000	155,000	49名
会報賛助金	0	1,022,876	△1,022,876	172名
雑収入	200,000	63,523	136,477	寄附金 30,000 出版物代金 33,360 利子等 163
繰越金	0	0	0	
繰入金	304,000	302,601	1,399	基金利子 2,601 基金繰入 300,000
合計	5,154,000	6,150,000	△996,000	

支出の部

項　目	予算額	決算額	差　異	
会議費	500,000	426,389	73,611	
総会費	400,000	265,000	135,000	懇親会費
役員会費	100,000	161,389	△61,389	幹事会、監事会、評議員会
事業費	2,180,000	2,387,138	△207,138	
印刷費	900,000	827,248	72,752	学生向け会報 272,848 春季号会報 554,400
卒業祝賀会費	300,000	300,000	0	
支部交付金	180,000	195,600	△15,600	鹿児島、熊本、近畿、兵庫、広島
旅費	200,000	178,760	21,240	長崎、熊本、宮崎、近畿・兵庫、佐賀
通信運搬費	500,000	795,530	△295,530	会報送料、振込手数料等
講演会費	50,000	40,000	10,000	総会講演会、学生向け講演会講師謝礼
功労者表彰積立金	50,000	50,000	0	平成26年度実施
事務局費	1,680,000	1,507,681	172,319	
役員報酬	520,000	520,000	0	
賃金	800,000	676,920	123,080	給料
備品費	100,000	0	100,000	
消耗品費	25,000	27,271	△2,271	事務用品等
光熱水費	50,000	74,825	△24,825	電気及び上下水道等
通信運搬費	100,000	135,821	△35,821	インターネット接続料、電話、切手、ハガキ等
賃借料	55,000	56,052	△1,052	H.25年度分
慶弔費	30,000	16,792	13,208	弔電等
全学同窓会分担金	100,000	100,000	0	
雑費	200,000	284,465	△84,465	ホームページ作成費、同窓会連合会負担金、支部みやげ、出版物等
繰出金	400,000	400,000	0	名簿特別会計へ
予備費	94,000	10,584	83,416	サーバー使用料
合計	5,154,000	5,116,257	37,743	

平成25年度功労者表彰特別会計決算書

前年度までの積立金	150,000
平成25年度の積立金	50,000
計	200,000

平成25年度同窓会名簿特別会計決算書

収入額　553,941円　　支出額　214,500円
繰越金　339,441円

収入の部

項　目	予算額	決算額	差　異	
名簿代	20,000	5,000	15,000	
雑収入	100	83	17	利子
繰越金	148,858	148,858	0	
繰入金	400,000	400,000	0	一般会計より
合計	568,958	553,941	15,017	

支出の部

項　目	予算額	決算額	差　異	
名簿作成費	60,000	52,500	7,500	
名簿購入費	0	0	0	
印刷費	60,000	52,500	7,500	卒業生名簿 500部
通信運搬費	3,000	0	3,000	
個人情報業務委託費	157,500	162,000	△4,500	H.26年度分
予備費	348,458	0	348,458	
合計	568,958	214,500	354,458	

あらた同窓会資産表

平成26年９月末日現在

基金特別会計		
定期預金	鹿児島銀行	10,000,000円
定期預金	南日本銀行	3,000,000円
普通預金	鹿児島銀行	901,340円
	合計	13,901,340円
一般会計		
普通貯金	郵便局	1,033,743円
名簿特別会計		
普通貯金	郵便局	339,441円
	総　計	15,274,524円

監 査 報 告 書

あらた同窓会平成25年度事業実績並びに会計について監査しましたが、諸帳簿、証拠書類、預金通帳等はよく整理され、事業運営並びに会計事務は適切に処理されているものと認めます。

平成26年10月17日

あらた同窓会
監事　吉山安夫
監事　菊川明
監事　下川悦郎

あらた同窓会
会長　藤田晋輔　殿

平成26年度一般会計予算書

収入額　6,886,743円　　支出額　6,886,743円

収入の部

項　　目	本年度予算額	前年度決算額	差　異	
会費	5,300,000	4,761,000	539,000	
年会費	2,800,000	2,420,000	380,000	2,000円×1,400名
入会金	2,100,000	2,096,000	4,000	新入生 10,000円×210名
懇親会費	400,000	245,000	155,000	5,000円×80名
会報賛助金	500,000	1,022,876	△522,876	
雑収入	50,000	63,523	△13,523	利子等
繰越金	1,033,743	0	1,033,743	
繰入金	3,000	302,601	△299,601	基金利子
合計	6,886,743	6,150,000	736,743	

支出の部

項　　目	本年度予算額	前年度決算額	差　異	
会議費	600,000	426,389	173,611	
総会費	400,000	265,000	135,000	80名
役員会費	200,000	161,389	38,611	幹事会、監事会、評議員会
事業費	2,850,000	2,387,138	462,862	
印刷費	1,000,000	827,248	172,752	会報
卒業祝賀会費	300,000	300,000	0	
支部交付金	200,000	195,600	4,400	各支部へ
旅費	250,000	178,760	71,240	支部総会出席等
通信運搬費	1,000,000	795,530	204,470	会報送料、振込手数料等
講演会費	50,000	40,000	10,000	講師謝礼等
功労者表彰積立金	50,000	50,000	0	平成31年度実施
事務局費	1,937,000	1,507,681	429,319	
役員報酬	520,000	520,000	0	
賃金	800,000	676,920	123,080	給料等
備品費	100,000	0	100,000	コピー機
消耗品費	30,000	27,271	2,729	事務用品等
光熱水費	100,000	74,825	25,175	電気、上下水道等
通信運搬費	200,000	135,821	64,179	インターネット接続料、切手等
賃借料	57,000	56,052	948	会館建物使用料
慶弔費	30,000	16,792	13,208	祝電、弔電等
会館維持費	100,000	0	100,000	
全学同窓会分担金	100,000	100,000	0	
雑費	300,000	284,465	15,535	
繰出金	550,000	400,000	150,000	名簿特別会計へ
予備費	549,743	10,584	539,159	
合計	6,886,743	5,116,257	1,770,486	

平成26年度同窓会名簿特別会計予算書

収入額　914,541円　　支出額　914,541円

収入の部

項　目	本年度予算額	前年度決算額	差　異	
名簿代	25,000	5,000	20,000	
雑収入	100	83	17	利子
繰越金	339,441	148,858	190,583	
繰入金	550,000	400,000	150,000	一般会計より
合計	914,541	553,941	360,600	

支出の部

項　目	本年度予算額	前年度決算額	差　異	
名簿作成費	60,000	52,500	7,500	
名簿購入費	0	0	0	
印刷費	60,000	52,500	7,500	卒業生名簿 500部
通信運搬費	3,000	0	3,000	
個人情報業務委託費	162,000	162,000	0	H.27年度分
予備費	689,541	0	689,541	
合計	914,541	214,500	700,041	

平成26年度功労者表彰特別会計予算書

収入額　250,000円　　支出額　250,000円

収入の部

項　　目	本年度予算額	前年度決算額	差　異	
繰入金	50,000	0	50,000	平成26年度積立金
積立金	200,000	0	200,000	平成22～25年度積立金
合計	250,000	0	250,000	

支出の部

項　　目	本年度予算額	前年度決算額	差　異	
祝賀会費	50,000	0	50,000	
記念品費	25,000	0	25,000	表彰状作成費等
雑費	30,000	0	30,000	
予備費	145,000	0	145,000	
合計	250,000	0	250,000	

鹿児島大学農学部あらた同窓会会則

第１章　総　則

（名称）

第１条　本会は、鹿児島大学農学部あらた同窓会（通称：あらた同窓会）と称する。

（目的）

第２条　本会は、会員相互の交流と親睦を図るとともに、農学部の発展に寄与することを目的とする。

（事業）

第３条　本会は、前条の目的を達成するために次に掲げる事業を行う。

(1) 会報及び会員名簿の発行
(2) 農学部との連携及び協力
(3) その他必要と認めた事項

（支部）

第４条　本会は、支部を必要な地に置くことができる。

第２章　会　員

（会員）

第５条　本会は、次に掲げる正会員、学生会員及び賛助会員をもって組織する。

正会員
　鹿児島高等農林学校卒業者
　鹿児島農林専門学校卒業者
　鹿児島大学農学部卒業者
　鹿児島大学大学院農学研究科修了者
学生会員
　農学部及び大学院農学研究科に在籍する学生
賛助会員
　現賛助会員（現職教員）
　旧賛助会員（退職教員）

２　会員は、住所等に移動が生じた場合、その都度事務局に連絡するものとする。

第３章　役　員　等

（役員）

第６条　本会に次の役員を置く。

(1) 会長	１名
(2) 常任副会長	１名
(3) 副会長	３名
(4) 評議員	若干名
(5) 監事	３名
(6) 常任幹事及び幹事	若干名
(7) その他会長が認めた者	

（役員の選任）

第７条　会長、常任副会長、副会長、評議員及び監事は、総会において選任する。

２　評議員は、前項の他に各地域支部支部長、農学部副学部長及び学科長、並びに鹿児島支部幹事をもってこの任に当てる。

３　幹事は、農学部の各講座から推薦された者をもってこの任に当て、その中から庶務、会計、会報および名簿担当の常任幹事を互選する。

（役員の任務）

第８条　会長は本会を代表して会務を総理する。

２　常任副会長は会務の執行を総括し、事務局を統括する。

３　副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

４　評議員は、総会及び評議員会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。

５　監事は会計の執行状況の監査を行う。

６　常任幹事及び幹事は、幹事会の構成員として、本会の事業の企画・立案及び実施等に関する事項について協議を行う。

（役員の任期）

第９条　総会で選任された役員の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員を生じた場合の補欠の任期は前任者の残任期間とする。

（名誉会長及び顧問）

第10条　本会に名誉会長及び顧問を置くことができる。

２　名誉会長は会長が委嘱する。

３　農学部長は本会の顧問とする。

４　名誉会長及び顧問は、会議に出席し、意見を述べることができる。

第４章　会　議

（会議）

第11条　本会の会議は、総会、評議員会及び幹事会とする。

（総会）

第12条　総会は、第５条第１項及び第10条に掲げる者をもって組織する。

２　総会は、次に掲げる事項を審議する。

(1) 役員の選任に関する事項
(2) 事業計画及び事業報告に関する事項
(3) 予算及び決算に関する事項
(4) 会則の改廃に関する事項
(5) その他会長が必要と認めた事項

３　総会は、会計年度開始から２ヶ月内に会長が招集する。

４　総会の議長は出席者の中から選出する。

５　議事は出席者の過半数で決するが、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（臨時総会）

第13条　臨時総会は、会長が必要と認める場合に開催できる。

２　臨時総会の議長の選出並びに議決は前条の規定によるものとする。

（評議員会）

第14条　評議員会は、会長、常任副会長、副会長及び評議員をもって組織する。

２　評議員会は、次に掲げる事項を審議する。

(1) 総会に付議すべき事項
(2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

（幹事会）

第15条　幹事会は、常任副会長、常任幹事及び幹事をもって組織する。

２　幹事会は、次に掲げる事項を協議する。

(1) 総会及び評議員会に付議する議案書の作成
(2) 本会が行う業務の具体的執行計画等

第５章　会　計

（経費）

第16条　本会の経費は、正会員及び現賛助会員の会費、学生会員の入会金及び会費、寄付金等をもって充てる。

２　正会員及び現賛助会員は、年会費として2,000円を納付する。

３　学生会員は、入会金及び在学中の会費として、入学時に、10,000円を納付する。

４　年齢が満80歳に達した会員は会費納付を免除する。

（会計年度）

第17条　本会の会計年度は、10月１日から翌年９月30日までとする。

（監査）

第18条　監事は、会計年度ごとの事業実績並びに会計の執行について監査を行い、その結果を会長に報告する。

第６章　事　務　局　等

第19条　本会の事務を処理するために事務局を置く。

２　事務局は鹿児島大学農学部あらた会館内に置く。

（雑則）

第20条　この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

本会則は、昭和28年12月12日より施行する。
本会則は、昭和53年11月23日より改訂施行する。
本会則は、昭和60年11月23日より改訂施行する。
本会則は、昭和61年11月23日より改訂施行する。
本会則は、昭和62年11月23日より改訂施行する。
本会則は、平成12年11月23日より改訂施行する。
本会則は、平成23年11月23日より改訂施行する。

覚　書

１　過去に終身会費を納付した終身会員は年会費の納付を免除する。

２　あらた同窓会功労者表彰は、2009年を起点として、５年毎に行う。

編集後記

今年も修了生、卒業生を送り出す時期が来ました。１教員として毎年思うことは、「どこまで学生を社会に対応できる人間に育てられたのだろうか。」ということに尽きます。ずいぶん前ですが、ある新聞に某大学の医学部教育について教授のインタビューが載っていました。その教授曰く、「私の仕事は、医術を教えるのは当然として、どこまで学生を普通の人間として世に送り出せるかです。」とありました。人間教育の難しさを痛感させられる記事です。

さらに、今年は、農学部の教育研究はもちろんですが、管理運営などで中心的な役割を果たされてこられた５名の先生方もご退職されます。また、平成27年度からの国際食料資源学特別コース開設、28年度からの農学部改組も待ったなしです。残った私たちは、同窓会会員の皆様に恥じないよう、ますます精進していかなければとの思いを新たにしています。

５名の先生方には長い間、本当にありがとうございました。

（文責　附属農場　遠城道雄）

鹿児島大学農学部
あ ら た 同 窓 会

〒890-0065
鹿児島市郡元一丁目21－24
ＴＥＬ・ＦＡＸ　099（285）8537
e-mail　aratakai@mc2.seikyou.ne.jp
振　替　口　座　02010－2－876
事務局の業務日
月、水、金（10：00～16：00）
印　刷　㈱廣済堂
〒560－8567
大阪府豊中市蛍池西町２－２－１
ＴＥＬ：06（6855）9241

桜島フェリー

附属農場西隣に建設中の市立病院